2Ja-6

青年における個室の装飾行為と自己表出性の関係

小俣　謙二（名古屋文理短大）

空間による自己表出性は、自我発達や精神衛生、空間への愛着形成と関連するとされ、住空間のなわばり行動論的解釈では重要な位置を占めている。しかしその反面、自己表出性の具体的な行動的指標についてはあまり議論されていないのが実状である。したがって、自己表出性のより客観的な行動的指標を見いだすことは、今後の住空間研究にとって意義があると思われる。

このような意図から、筆者は青年の個室使用に関する調査のうち、個室の装飾行為と部屋の自己表出性の評価との関係について分析を行った。

被調査者は大学1・2年の男子114名と女子75名である。14の個室の装飾行為の有無と自室の自己表出性に関する評価との関連を分析した。

その結果、装飾行為の数と自己表出性の評価では男女とも正の相関がみられ、装飾行為が多いほど評価も高かった。しかし、個々の行為については自己表出性の評価との関係はさまざまであり、性差もみられた。男女に共通して自己表出性と関連した行為は「部屋の色を好きな色で統一する」「ポスターを貼る」「趣味に関連したものを貼る」「植物を置く」「整頓しておく」であった。また、自己表出性と関連する行為の数は男子の方が多かった。